

高き志【こころざし】

子育てを終えて

学校再開から一週間ほどがたちました。この学校便りもしばらく新型コロナウイルスと関連のある記事を書いてきました。本号は、少し気持ちを切り替えて、通常の記事をお届けしたいと思います。

我が家は一人息子で、その息子もすでに社会人5年目となります。同居していますが、会社から帰宅してもほとんど会話はなく、自室でゲームやSNS等をして過ごしているようです。会社できちんとやれているのか心配ですが、どうにかクビにならずに仕事は続けることができているようです。

ところで、子育てはいつ終わったといえるのでしょうか。子育てをどのようにとらえるかによって考え方は変わるのかもしれませんが。精神的な自立の面から考えると、大学生ぐらいになり、経済的なこと以外はほぼ自分の判断で行動するようになった時期と考えることもできるでしょう。法的な面から考えると、成人式や二十歳（18歳）の誕生日が子育ての終わりといえるかもしれません。そして、経済的な自立の面から考えると、子どもを社会人として社会に送り出したときが子育ての終わりともできると思います。

このように考えてみると、反省点は大きいにあるものの、私の子育ては完全に終了したと言えるでしょう。

子育てを終えて思うことは、「子どもは親の姿を見て育つ」…これにつきると思います。前述した息子の姿は、私の姿と重なる部分がないとは言いきれないのです。自分の後ろ姿が褒められたものでないと自覚しているので、息子の今の姿も受け入れるしかないといふに反省しているのです。

アメリカの教育学者である、ドロシー・ロー・ノルトさんは次のように言っています。

けなされて育つと、子どもは、人をけなすようになる
とげとげした家庭で育つと、子どもは、乱暴になる
不安な気持ちで育てると、子どもも不安になる
叱りつけてばかりいると、子どもは「自分は悪い子なんだ」と思ってしまう
励ましてあげれば、子どもは、自信を持つようになる
広い心で接すれば、キレる子にはならない

誉めてあげれば、子どもは、明るい子に育つ
愛してあげれば、子どもは、人を愛することを学ぶ
認めてあげれば、子どもは、自分が好きになる
分かち合うことを教えれば、子どもは、思いやりを学ぶ
親が正直であれば、子どもは、正直であることの大切さを知る
子どもに公平であれば、子どもは、正義感のある子に育つ
やさしく、思いやりをもって育てれば、子どもは、やさしい子に育つ
和気あいあいとした家庭で育てば、
子どもは、この世の中はいいところだと思えるようになる

今、改めて読み返しても、これらのことには心から共感できます。私にはできなかったことばかりです。私の息子への関りが不足していたことが、今の息子の姿になっているのだと感じます。いまさら反省しても、もう取り返しはつきませんが、今、子育て真っ最中の保護者の方々には、この言葉を胸に子どもたちと接していかれることをお勧めします。

私たちが気付かなくても、私たちの後姿をじっと見ている子どもたちがいるのです。

今週末PTA役員会を開催し、今後の学校行事等について現時点での決定をしますので、来週号は、今後の教育活動等についてお知らせする予定です。